

平成 29 年度 学校経営計画及び学校評価

1 教育目標

| |
|--|
| <p>教育理念 夢と高い志、挑戦、そして未来創造</p> <p>教育目標 一人ひとりの未来へと繋がる夢を実現する</p> <p>校訓 誠実剛毅</p> <p>育てたい人物像</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 知育・徳育・体育の調和のとれた人格を有し、国際社会に貢献し、活躍できる生徒 ・ 多様な個性を尊重し、相手の立場に立って行動できる、意志が強く、くじけない生徒 ・ 自らの能力を最大限に伸ばし、進路実現にたゆまず努力する生徒 ・ 主体的に課題を発見し、周囲と協働し解決することのできる生徒 ・ 自治と責任を重んじ、謙虚と礼儀を尊ぶ生徒 |
|--|

2 中期的目標

| |
|--|
| <ol style="list-style-type: none"> 1. 進学目標の達成 2. 新テストに対応する学力を養成するための「授業改善」 3. 探究型学習カリキュラムの開発 4. 英語教育・国際教育の充実 |
|--|

3 学校教育の自己診断と学校関係者評価委員会

| 学校教育 自己診断の結果と分析 | 学校関係者評価委員会 |
|---|--|
| <p>1) 教育活動に関する保護者アンケート [H29.12.11～H29.12.18 実施]</p> <p>○中学【有効回答数 290 (1年 86・2年 103・3年 101 回収率 94.8%)】</p> <p>○高校【有効回答数 970 (1年 337・2年 306・3年 315 回収率 90.8%)】</p> <p>・ 肯定的評価(「あてはまる」または「ややあてはまる」)が 80%以上の項目は、 中学：20 項目中 13 項目、高校：20 項目中 12 項目であった。</p> <p>・ 特に、肯定的な回答がともに 85%以上であった項目は 「わが子を入学させてよかったと思う」(中 94%/高 89%) 「教員は、生徒のことをよく考えて指導している」(中 94%/高 89%) 「挨拶や時間厳守など、社会に通用する指導がなされている」(中 95%/高 95%) 「保護者への連絡や、情報公開は適切に行われている」(中 93%/高 91%) 「教職員は、お互いに協力して学校運営に取り組んでいる」(中 94%/高 86%)</p> <p>となっており、中高とも本校の教育内容に一定の評価をいただいているが、80%未満だった項目についても結果を真摯に受けとめ、改善に取り組む。</p> <p>2) 生徒による授業評価アンケート [第 1 回 (中学：H29.7.29/高校：H29.7.22) 第 2 回 (中高とも：H29.12.16) 実施]</p> <p>・ 授業評価アンケートの各授業の共通設問「授業内容に満足している(主にレベルや理解度の観点で)」に対する肯定的評価(全教科全クラス平均/高校 3 年は第 1 回のみ)は、 中 1 (第 1 回 86.8%/第 2 回 84.6%) 中 2 (第 1 回 85.5%/第 2 回 84.8%) 中 3 (第 1 回 84.9%/第 2 回 82.7%) 高 1 (第 1 回 81.1%/第 2 回 79.6%) 高 2 (第 1 回 84.7%/第 2 回 82.1%) 高 3 (第 1 回 84.6%)</p> <p>となっており、一定の評価が得られていると考えるが、全学年で 85%以上の肯定的評価が得られるよう、引き続き授業改善に取り組む。</p> <p>3) 教員による自己評価アンケート [H29.12.12 実施]</p> <p>「年間を通じた教育計画を各教科別に立てている」 94% 「さまざまな学校行事があり、活発である」 90% 「生徒指導において、家庭との連携ができている」 95% 「授業を改善し、分かる授業、力のつく授業の工夫をしている」 96% 「生徒の実態に合った工夫された学習指導が行われている」 90% 「電子黒板は、授業や HR・総合学習で有効に活用されている」 95%</p> <p>など、教育に対する取り組みには自負を持っていることが伺える。一方、 「施設・設備が整っている」 41% 「ボランティア活動は活発である」 41%</p> <p>などの肯定的評価の低い項目については、前年度に比べて評価は上昇しているが、さらなる改善を検討する。</p> | <p>①委員会の体制 初芝富田林中学校・高等学校評価委員会 地域の方(町会長)2名・学識経験者(元公立中学校校長)1名・中学2年保護者(学年委員長・副委員長)2名・高校2年保護者(学年委員長・副委員長)2名・校長・教頭・事務長</p> <p>②委員会の実施日 平成 30 年 3 月 24 日, 26 日</p> |

4 本年度の取り組みと達成状況

| 中期目標 | 今年度の重点目標(P1) | 評価指標(P2) | 具体的な取組(D) | 達成状況(C) | 今後の改善策(A) |
|------------------------------|----------------------|--|--|--|--|
| 1. 進学目標の達成 | 新コースの特色化・教育内容の具体化と実践 | ①H30 年度カリキュラム完成 ②東大合宿プログラムと Will-Frontier Study Camp (WFSC)の実施 ③WF コース：中学 1 クラス以上、高校 2 クラス以上をめざす。 | ① カリキュラムの検討・協議 ② 左記 2 種類のプログラムをコースの特性に応じて立案 ③ 保護者への説明責任を意識した適切な進路指導 | ① カリキュラムの策定（「探求」、高 3 授業数の変更など） ② 左記 2 種類のプログラムを実施(6 月と 8 月) ③ 中 3 WF コース 1 クラス、WF コース 3 クラス（一貫 1 クラス、高入 2 クラス）を予定。 | ・次期学習指導要領改訂に伴いさらに精査し、改定 ・左記 2 種類のプログラムを統合して実施（8 月予定。） ・継続的に、WF コース人数の増加に努める。 |
| 2. 新テストに対応する学力を養成するための「授業改善」 | (1) 公開授業や校内研修による授業改善 | (1) ①アクティブ・ラーニング (AL)授業率 10%以上 ②公開授業の実施（各教科 1 回以上） ③校内研修の実施・研修会への参加 ④生徒 授業評価アンケート「授業内容に満足している」肯定的評価 80%以上 ・保護者 学校評価アンケート (a)「わが子は、授業内容に満足している」 (b)「教職員は、授業を改善し、わかる授業、力のつく授業の工夫をしている」肯定的評価 80%以上 | (1) ① AL/PBL 型授業の実践と改善 ②公開授業の企画・実践 ③校内研修・研修会参加への啓蒙 ④授業評価アンケートの振り返りと課題抽出 | (1) ①教員による自己評価アンケート：主体的な学び 32.9%・対話的で深い学び 21.6% ②年間で 318 の公開授業を実施した。 ③12 月に AL・ICT に関する校内研修を実施。外部研修にも多数受講した。 ④生徒 授業評価アンケート 第 1 回中学 85.8%，高校 83.6% 第 2 回中学 84.0%，高校 80.9% 保護者学校評価アンケート (a) 中学 78%，高校 70% (b) 中学 87%，高校 75% | (1) ①次年度は生徒による授業評価アンケートにおいても「主体的・対話的で深い学び」が実施できているかを測定する。 ・公開授業の質的向上を図るために、教科全員が参加できる体制をつくる。 ・継続して校内研修を行い、外部研修にも積極的に参加するよう組織的に働きかける ・生徒による授業満足度は肯定的評価 85%以上を目標とする。 ・保護者による学校評価においても肯定的評価 80%以上を達成するべく努力する。 |
| | (2) ICT 活用 | (2) ①電子黒板・タブレット活用率 50% ②中 1・高 1 のタブレット PC 活用 | (2) ①授業実践における電子黒板・タブレット PC 活用 ②授業実践におけるタブレット PC 活用 | (2) ①9 月教員アンケート自己評価 ・電子黒板活用率 72.4% ・教員タブレット活用率 60.7% ②ほぼ毎日 HR 連絡等をタブレット PC で確認している。授業でも積極的に活用が試みられている。 | (2) ①授業実践における ICT の効果的活用について研究協議し、改善を試みる。 |
| 3. 探究型学習カリキュラムの開発 | (1) 「探究」授業のプログラム作成 | (1) ①「探究」プログラムと評価方法の作成 ②「クエストカップ 2018」の参加継続 ③教員研修の実施 | (1) ①「探究」プログラムと評価方法の検証 ②「クエストカップ 2018」への学校全体で参加 ③「探究」勉強会の実施 | (1) ①高 1 は「Social Change」を利用し、チームティーチングで授業を行う。評価方法(ルーブリック)を検討中。 ②中 2～高 2 までの希望者を対象に課外で「クエスト(企業探究コース)」を実施。68 名が参加、うち 1 チーム(4 名)が全国大会に出場した。 ③11 月より「探究」勉強会を月 1～2 回実施している。 | (1) ①ルーブリックを完成させる。 ・高 2 についても検討を進める。 ・「クエスト」は新中 3 の総合学習で実施。課外についても継続を検討する。 ・勉強会を継続し、「探究」授業のコアとなる教師を増やす。 |

| | | | | | |
|-----------------|------------------------------|---|--|--|--|
| 4. 英語教育・国際教育の充実 | (1) 4 技能のバランスがとれた高い英語力の育成 | (1) ①公開授業の実施 ②評価基準(ルーブリック)の作成 ③ネイティブ教員による探究型授業の実施 ④英語スピーチコンテストの実施 ⑤校外コンテストへの参加 | (1) ①英語科教員の情報共有の機会の増加 ②ルーブリックを取り入れた評価の導入 ③ネイティブ教員とのコラボレーション ④ 英語スピーチコンテスト企画 ⑤積極的参加の啓蒙 | (1) ①英語科の公開授業は 55 回実施された。 ②ルーブリックを作成中。 ③新高1より週 1 回ネイティブとの TT で探究的な授業を行う。 新中2・3より「国際理解」の授業でオンライン英会話の授業を開始する。 ④高2で Oxford 研修参加者によるプレゼンテーションを実施した。 ⑤第 57 回大阪府高等学校英語暗唱弁論大会 高 2(1 名) 出場 | (1) ・引き続き、公開授業や英語科内での情報共有を通して、授業等の改善に努める。 ・生徒の英語による表現の機会を多くつくり、 Speaking 力の向上を図る。 |
| | (2) 国際教育プログラムの充実 | (2) ①エンパワーメントプログラム(3/12~15)の企画 ②新企画の立案 | (2) ①エンパワーメントプログラムの実施 ②海外留学等への興味付け | (2) ①エンパワーメントプログラムは参加者 30 名で実施。 ②7 月「留学セミナー」実施。(中1~高2) 12 月中 3 対象「トビタテ! 留学 JAPAN」説明会を実施 | (2) ・前年度参加者に話してもらうなど、広報の仕方を工夫する。 ・高校生にも「トビタテ!」を紹介し、応募者の増加を目指す。 |